

神河町銀の馬車道及び石造物調査

岩田 聖也

1. 概要

歴史地理学ゼミは、兵庫県神埼郡神河町にて、昨年度に引き続き銀の馬車道の踏査、及び猪篠地区の大歳神社（写真 1）、杉地区の大年神社（写真 2）の石造物の調査をおこなった。本章はその報告である。

調査日：2017 年（平成 29）9 月 19 日、20 日

調査者：上杉和央（教員）、竹内祥一朗（4 回生）

岩田聖也・上野優里・植松紀子・田淵巴奈子（3 回生）

2. 調査内容

2 日間を通しての主な作業は、昨年度おこなった神河町における馬車道の踏査の確認と、昨年度は範囲外であった神河町役場以南の踏査である。踏査の内容は馬車道の道幅、道沿いの石垣の有無および緯度・経度を記録することであり、神河町役場以北から朝来市との境界までの道幅については昨年度、完了していたため、記録した石垣の緯度・経度を再度確認することと新たな踏査範囲のデータを記録することが主な目的となった。

19 日の午後から上杉・上野・植松と竹内・岩田・田淵の二班に分かれて踏査を開始した。上杉班は神河町役場から南下して市川町境まで踏査した。岩田班は神河町と朝来市の境界付近から国道 312 号を南下し、ヨーデルの森の西側へと抜け、播但連絡道路の東の道をさらに南下し、道沿いにある料理店付近まで到達した。岩田班は道中、猪篠地区にある大歳神社の石造物調査（写真 3）も兼ねておこない、この神社にある石造物すべての緯度・経度、刻銘を記録し、写真撮影もおこなった。

20 日は上杉・上野、竹内・植松、岩田・田淵の 3 班に分かれた。上杉班は前日の補足調査をおこない、竹内班は越智川付近の粟賀と吉富の境界あたりから北上する踏査を、岩田班は前日の終了地点からさらに南下する踏査をおこなった。竹内・岩田班は昼頃、杉の大年神社付近で合流し、午後からはこの神社の石造物調査を行った。前日と同じように、神社にあるすべての石造物の緯度・経度、碑文を記録し（写真 4）、写真撮影をおこなった。



写真1 猪篠地区の大歳神社



写真2 杉地区の大年神社



写真3 緯度経度記録の様子



写真4 碑文調査の様子